



⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
基礎演習Ⅱ	2	○	○	○	○						
情報基礎Ⅰ	1	○		○	○						
情報基礎Ⅱ	1	○		○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビッグデータ、IoT、AI「基礎演習Ⅰ」(10回目)、「情報基礎Ⅰ」(1回目)</li> <li>・データ量の増加、計算機の処理性能の向上「基礎演習Ⅰ」(7~9回目)</li> <li>・第4次産業革命、Society5.0、データ駆動型社会「情報基礎Ⅰ」(13~15回目)</li> <li>・複数技術を組み合わせたAIサービス「情報基礎Ⅰ」(1~3回目)</li> <li>・人間の知的活動とAIの関係性「基礎演習Ⅰ」(8・10回目)、「情報基礎Ⅱ」(13・14回目)</li> <li>・データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方「基礎演習Ⅰ」(8回目)、「情報基礎Ⅱ」(11・12回目)</li> </ul>
	1-6 <ul style="list-style-type: none"> <li>・AI最新技術の活用例「基礎演習Ⅰ」(8回目)、「情報基礎Ⅰ」(1・3・4・5回目)、「情報基礎Ⅱ」(14・15回目)</li> </ul>
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2 <ul style="list-style-type: none"> <li>・調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど「基礎演習Ⅱ」(7・8回目)</li> <li>・1次データ、2次データ「基礎演習Ⅱ」(6回目)</li> </ul>
	1-3 <ul style="list-style-type: none"> <li>・データ・AI活用領域の広がり「基礎演習Ⅰ」(10回目)、「情報基礎Ⅰ」(1・3回目)、「情報基礎Ⅱ」(15回目)</li> </ul>
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4 <ul style="list-style-type: none"> <li>・データ可視化: 複合グラフ、2軸グラフ、多次元の可視化、関係性の可視化、地図上の可視化、挙動・軌跡の可視化、リアルタイム可視化など「基礎演習Ⅱ」(6~10回目)、「情報基礎Ⅰ」(12・13回目)、「情報基礎Ⅱ」(8・9回目)</li> <li>・データ解析: 予測、グルーピング、パターン発見、最適化、シミュレーション・データ同化など「基礎演習Ⅱ」(10回目)、「情報基礎Ⅱ」(11・12回目)</li> </ul>
	1-5 <ul style="list-style-type: none"> <li>・データ・AI活用事例紹介「情報基礎Ⅰ」(1回目)、「情報基礎Ⅱ」(14・15回目)</li> </ul>

(4) 活用に当たった様々な留意事項 (ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人情報保護、忘れられる権利、オプトアウト「情報基礎Ⅰ」(14・15回目)、「情報基礎Ⅱ」(4・5回目)</li> <li>データ倫理: プライバシー保護「情報基礎Ⅰ」(14・15回目)、「情報基礎Ⅱ」(4・5回目)</li> <li>AI社会原則(公平性、説明責任、透明性、人間中心の判断)「情報基礎Ⅱ」(15回目)</li> <li>AIサービスの責任論「情報基礎Ⅱ」(15回目)</li> <li>データ・AI活用における負の事例紹介「基礎演習Ⅰ」(9・10回目)、「情報基礎Ⅰ」(2回目)</li> </ul>
	3-2	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報セキュリティ: 機密性、完全性、可用性「情報基礎Ⅰ」(14・15回目)、「情報基礎Ⅱ」(4・5回目)</li> <li>匿名加工情報、暗号化、パスワード、悪意ある情報搾取「基礎演習Ⅰ」(10回目)、「情報基礎Ⅰ」(14・15回目)、「情報基礎Ⅱ」(4・5回目)</li> <li>情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介「情報基礎Ⅰ」(2回目)</li> </ul>
(5) 実データ・実課題 (学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理解・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	<ul style="list-style-type: none"> <li>データの種類(量的変数、質的変数)「基礎演習Ⅱ」(6~8回目)</li> <li>データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)「基礎演習Ⅱ」(9回目)</li> </ul>
	2-2	<ul style="list-style-type: none"> <li>データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図)「基礎演習Ⅱ」(6~10回目)、「情報基礎Ⅰ」(12・13回目)、「情報基礎Ⅱ」(8~12回目)</li> <li>データの比較(条件をそろえた比較、処理の前後での比較)「基礎演習Ⅱ」(6~10回目)、「情報基礎Ⅰ」(12・13回目)、「情報基礎Ⅱ」(8~12回目)</li> <li>不適切なグラフ表現(チャートジャンク、不必要な視覚的要素)「基礎演習Ⅱ」(6~10回目)、「情報基礎Ⅰ」(12・13回目)</li> </ul>
	2-3	<ul style="list-style-type: none"> <li>データの集計(和、平均)「基礎演習Ⅱ」(6~10回目)、「情報基礎Ⅰ」(12・13回目)、「情報基礎Ⅱ」(8~12回目)</li> <li>データの並び替え、ランキング「基礎演習Ⅱ」(6~10回目)、「情報基礎Ⅰ」(12・13回目)、「情報基礎Ⅱ」(8・9回目)</li> <li>データ解析ツール(スプレッドシート)「基礎演習Ⅱ」(6~10回目)、「情報基礎Ⅰ」(12・13回目)、「情報基礎Ⅱ」(8~12回目)</li> <li>表形式のデータ(csv)「基礎演習Ⅱ」(6~10回目)、「情報基礎Ⅰ」(12・13回目)、「情報基礎Ⅱ」(8・9回目)</li> </ul>

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

- デジタル情報やAIの特性を説明することができる
- データやAIが社会の中でどのように活用されているかを説明することができる
- 適切なツールを用いて具体的なデータの処理・分析を行うことができる
- 具体的なデータを分析した結果を他者に説明することができる
- データやAIの活用におけるリスクや留意事項を説明することができる

【参考】

⑫ 生成AIに関連する授業内容 ※該当がある場合に記載

教育プログラムを構成する科目に、「数理解・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)モデルカリキュラム改訂版」(2024年2月 数理解・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム)において追加された生成AIに関連するスキルセットの内容を含む授業(授業内で活用事例などを取り上げる、実際に使用してみるなど)がある場合に、どの科目でどのような授業をどのように実施しているかを記載してください。

※本項目は各大学の実践例を参考に伺うものであり、認定要件とはなりません。

講義内容



⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
数的思考法	2		○	○	○						
データ・サイエンス概論	2		○	○	○						
統計学Ⅰ	2		○	○	○						
統計学Ⅱ	2		○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目
データ・サイエンス概論	4-5テキスト解析		
統計学Ⅰ	4-1統計および数理基礎		
統計学Ⅱ	4-1統計および数理基礎		

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビッグデータ、IoT、AI「デジタル・シチズンシップ論」(4・5・13・14回目)</li> <li>・データ量の増加、計算機の処理性能の向上、AIの非連続的進化「デジタル・シチズンシップ論」(4・5回目)</li> <li>・第4次産業革命、Society5.0、データ駆動型社会「デジタル・シチズンシップ論」(4・5・13・14回目)</li> <li>・複数技術を組み合わせたAIサービス「デジタル・シチズンシップ論」(4・5・13・14回目)</li> <li>・人間の知的活動とAIの関係性「デジタル・シチズンシップ論」(6・7回目)</li> <li>・データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方「デジタル・シチズンシップ論」(6・7回目)</li> </ul>
	1-6 <ul style="list-style-type: none"> <li>・AI等を活用した新しいビジネスモデル「デジタル・シチズンシップ論」(4・5・13・14回目)</li> <li>・AI最新技術の活用例「デジタル・シチズンシップ論」(4・5・13・14回目)</li> </ul>
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2 <ul style="list-style-type: none"> <li>・調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど「数的思考法」(4・5回目)、「データ・サイエンス概論」(4～8、10～14回目)</li> <li>・1次データ、2次データ「数的思考法」(2・3回目)、「統計学Ⅰ」(3回目)、「統計学Ⅱ」(2・3・4回目)</li> </ul>
	1-3 <ul style="list-style-type: none"> <li>・データ・AI活用領域の広がり「デジタル・シチズンシップ論」(4・5回目)</li> <li>・マーケティング、サービス「データ・サイエンス概論」(6～8回目)</li> <li>・仮説検証、知識発見、原因究明「データ・サイエンス概論」(4～15回目)</li> </ul>
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4 <ul style="list-style-type: none"> <li>・データ解析: 予測、グルーピング、パターン発見、最適化、シミュレーション・データ同化など「数的思考法」(4・5回目)、「データ・サイエンス概論」(9～14回目)</li> <li>・データ可視化: 複合グラフ、2軸グラフ、多次元の可視化、関係性の可視化、地図上の可視化、挙動・軌跡の可視化、リアルタイム可視化など「数的思考法」(2～15回目)、「データ・サイエンス概論」(2・3・15回目)、「統計学Ⅰ」(4・5回目)、「統計学Ⅱ」(6・7回目)</li> <li>・非構造化データ処理: 言語処理、画像/動画処理、音声/音楽処理など「デジタルシチズンシップ論」(2回目)、「データ・サイエンス概論」(13・14回目)</li> </ul>
	1-5 <ul style="list-style-type: none"> <li>・データ・AI利活用事例紹介「デジタル・シチズンシップ論」(4・5回目)</li> </ul>

(4) 活用に当たった様々な留意事項 (ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人情報保護、忘れられる権利、オプトアウト「デジタル・シチズンシップ論」(6～12回目)</li> <li>データ倫理: プライバシー保護「デジタル・シチズンシップ論」(6～12回目)</li> <li>AI社会原則(公平性、説明責任、透明性、人間中心の判断)「デジタル・シチズンシップ論」(6～12回目)</li> <li>データバイアス、アルゴリズムバイアス「デジタル・シチズンシップ論」(8・9回目)</li> <li>AIサービスの責任論「デジタル・シチズンシップ論」(10～12回目)</li> <li>データ・AI活用における負の事例紹介「デジタル・シチズンシップ論」(10～12回目)</li> </ul>
	3-2	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報セキュリティ: 機密性、完全性、可用性「デジタル・シチズンシップ論」(10～12回目)</li> <li>匿名加工情報、暗号化、パスワード、悪意ある情報搾取「デジタル・シチズンシップ論」(10～12回目)</li> <li>情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介「デジタル・シチズンシップ論」(10～12回目)</li> </ul>
(5) 実データ・実課題 (学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	<ul style="list-style-type: none"> <li>データの種類「数的思考法」(2・3回目)、「統計学Ⅰ」(3回目)、「統計学Ⅱ」(2回目)</li> <li>データの分布と代表値「数的思考法」(13回目)、「統計学Ⅰ」(4回目)、「統計学Ⅱ」(4～6回目)</li> <li>データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)「数的思考法」(8・9回目)、「統計学Ⅰ」(4回目)、「統計学Ⅱ」(4～6回目)</li> <li>層別の必要なデータ「データ・サイエンス概論」(3回目)</li> <li>相関と因果「データ・サイエンス概論」(8・10～13回目)、「統計学Ⅰ」(5回目)</li> <li>母集団と標本抽出「データ・サイエンス概論」(4回目)、「統計学Ⅰ」(9・10回目)</li> <li>クロス集計表「データ・サイエンス概論」(6・7回目)</li> </ul>
	2-2	<ul style="list-style-type: none"> <li>データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図)「数的思考法」(2～11、14～15回目)、「データ・サイエンス概論」(2～15回目)</li> <li>データの比較(条件をそろえた比較、処理の前後での比較)「数的思考法」(2～11、14～15回目)、「データ・サイエンス概論」(3～6回目)、「統計学Ⅰ」(12～14回目)、「統計学Ⅱ」(10～14回目)</li> <li>不適切なグラフ表現(チャートジャンク、不必要な視覚的要素)「数的思考法」(2～11回目)</li> </ul>
	2-3	<ul style="list-style-type: none"> <li>データの集計「数的思考法」(2～11、13～15回目)、「データ・サイエンス概論」(2～15回目)、「統計学Ⅰ」(4・5・9・10、12～14回目)、「統計学Ⅱ」(4～6、8～14回目)</li> <li>データの並び替え、ランキング「数的思考法」(2～11、13～15回目)、「データ・サイエンス概論」(2～15回目)</li> <li>データ解析ツール(スプレッドシート)「数的思考法」(2～15回目)、「データ・サイエンス概論」(2～15回目)、「統計学Ⅰ」(4・5・9・10、12～14回目)、「統計学Ⅱ」(2～6、8～14回目)</li> <li>表形式のデータ(csv)「数的思考法」(2～15回目)、「データ・サイエンス概論」(2～15回目)、「統計学Ⅰ」(4・5・9・10、12～14回目)、「統計学Ⅱ」(2～6、8～14回目)</li> </ul>

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

- デジタル情報やAIの特性を説明することができる
- データやAIが社会の中でどのように活用されているかを説明することができる
- 適切なツールを用いて具体的なデータの処理・分析を行うことができる
- 具体的なデータを分析した結果を他者に説明することができる
- データやAIの活用におけるリスクや留意事項を説明することができる

【参考】

⑫ 生成AIに関連する授業内容 ※該当がある場合に記載

教育プログラムを構成する科目に、「数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)モデルカリキュラム改訂版」(2024年2月 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム)において追加された生成AIに関連するスキルセットの内容を含む授業(授業内で活用事例などを取り上げる、実際に使用してみるなど)がある場合に、どの科目でどのような授業をどのように実施しているかを記載してください。

※本項目は各大学の実践例を参考に伺うものであり、認定要件とはなりません。

講義内容



大学等名

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

- ① 全学の教員数 (常勤)  人 (非常勤)  人
- ② プログラムの授業を教えている教員数  人
- ③ プログラムの運営責任者  
 (責任者名)  (役職名)

- ④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)  
  
 (責任者名)  (役職名)

- ⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

- ⑥ 体制の目的
- 当部会は、教養科目及び基盤教育科目(いずれも数理・データサイエンス・AIに関する科目を含む)をはじめとする教養教育のカリキュラム運営を通して、本学における教養・基盤教育の充実に資することを目的とする。

この目的のため当部会は、数理・データサイエンス・AIに関する科目を主に担当する教育イノベーション研究センターの教員を含む、教養科目及び基盤教育科目を担当する教員によって構成する。

- ⑦ 具体的な構成員
- ◆外国語学部  
 教授 : 武田明典・青砥清一・飯島明子・吉村稔子・町田明広  
 准教授 : 大宅利美・柳在廣・伊藤未帆・徳永あかね・小野塚和人  
 講師 : 曾我部和馬・林亜美

◆グローバル・リベラルアーツ学部  
 教授 : 石井雅章(教育イノベーション研究センター長)・植田かおり  
 准教授 : 知念涉(教養・基盤教育運営部会長)・上野大祐・吉田京子 講師: 鈴木健太

◆教育イノベーション研究センター  
 准教授 : 近藤秀樹 講師: 井芹俊太郎

◆アカデミックサクセスセンター 准教授: 西菜穂子

◆体育・スポーツセンター 講師: 江川潤



⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和5年度実績	3%	令和6年度予定	8%	令和7年度予定	16%
令和8年度予定	25%	令和9年度予定	27%	収容定員(名)	3,873

具体的な計画

令和5年度は以下の手段で学生へのプログラムの周知を行った。

- ・学生用ポータルサイトでの案内
- ・プログラムを構成する科目の授業内での紹介
- ・大学ホームページでの情報公開

令和6年度以降はこれらに加え、各学年の新年度ガイダンスにおける案内・資料共有を行うことにより、対象となる全ての学生へより確実に周知を行うとともに、積極的な履修を促す。

また、外国語学部では令和5年度以降の入学者が本プログラムの対象となることに加え、全学生を対象としているグローバル・リベラルアーツ学部は令和6年度に完成年度を迎えるため、年度の進行に伴い収容定員に対する対象学生の割合が増え、プログラム履修率も向上することを見込んでいる。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

本プログラムは学部ごとに異なるカリキュラム・修了要件となっているが、いずれも希望する全ての学生が履修・修了できるものとなっている。

また学生への周知の際は、プログラムの履修に関する問い合わせ窓口が教務部であることを明示しており、学生からの相談があった際は担当者が対応を行っている。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

周知については⑧に記載の通り、対象となる全ての学生に情報が行き渡る方法で行っている。

また、外国語学部のカリキュラムを構成する4つの科目はいずれもオンデマンド形式で受講するものであり、履修者数の制限なく受講することが可能である。

加えて本学では令和5年度より、学修者本位の教育を実現するための教学マネジメントの一環として、シラバス・履修科目選択・学習環境・学修成果実感等に関する課題を把握するための「授業運営アンケート」を実施しており、学生が希望通りの履修をできているかについても確認を行っている。本プログラムの構成科目は多くの学生が履修できるよう時間割等の考慮が成されているが、このアンケートで特定の科目における学生の履修しにくさやその要因が判明した場合は、教養・基盤教育運営部会、教務委員会を中心に改善の検討を行う。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

外国語学部のプログラム構成科目である基礎演習Ⅰ・基礎演習Ⅱ（いずれも学生はオンデマンドで受講）では、より多くの学生の計画的な履修と単位修得のため、クラスごとに配置された担当教員による質問対応や、受講が遅れている学生へのリマインド、教材開発担当の教員による対面での学習相談会などを行っている。

また、受講が遅れている学生の情報は各学科・専攻の教員とも共有し、必修である専攻言語科目の担当教員が学習状況のフォローなども行っている。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

⑪に記載した基礎演習Ⅰ・基礎演習Ⅱにおけるクラス担当教員制度・学習相談会に加え、いずれの科目でもLMSとしてGoogle Classroomを使用しており、学生はそれを通じて随時教員に質問をすることができる。

また、本学では全ての常勤教員がオフィスアワーを設けており、学生はその時間を活用して授業に関する質問・相談を行うことも可能である。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

質保証・質向上委員会

(責任者名) 宮内 孝久

(役職名) 学長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>【外国語学部】 履修者数: 92名 (対象在学生の10.2%) 対象4科目の単位取得率: 80.5%~93.2% (修了者の発生は来年度から)</p> <p>【GLA学部】 履修者数: 6名 (対象在学生の5.6%) 統計学Ⅱの単位取得率: 60.0% (ただし履修者数5名) / その他4科目の単位取得率: 77.5%~87.5% 修了者数: 5名</p> <p>本プログラムは今年度後期より開始のため、来年度は年度初めのガイダンスでの周知も行き履修者の拡大を目指す。単位取得率はほとんどの科目で8割を超えており、学生は学習内容を順調に習得できている。統計学Ⅱには、履修判断に影響があると考えられる統計学Ⅰも含めた難易度の調整と接続を検討する。</p>
学修成果	<p>プログラム履修者を対象としたアンケートでは、回答した学生の8割以上が本プログラムで身につく5つの力について「身についた」「ある程度身についた」と回答しており、本プログラムが目指す学修成果をあげることができていると考えられる。</p> <p>9~10月に実施したため参考値ではあるが、全学生対象のアンケートにおけるプログラム履修者の回答では、「数理的な能力の入学後の変化実感」についてGLA学部生は80.0%が「大きく増えた」もしくは「増えた」と回答している一方、外国語学部生の同回答は27.3%にとどまっており、こちらの指標についても今後の推移を確認していく。</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>各科目の授業評価アンケート結果は以下の通り。</p> <p>【外国語学部】 内容を「理解できた」「まあまあ理解できた」と回答した学生の割合 基礎演習Ⅰ: 84.8% 基礎演習Ⅱ: 66.5%</p> <p>【GLA学部】 到達目標を達成できたかについて「そう思う」「ややそう思う」と回答した学生の割合 デジタル・シチズンシップ論: 100% 数的思考法: 96.4% データ・サイエンス概論: 72.2% 統計学Ⅰ: 83.3% 統計学Ⅱ: 100%</p> <p>いずれの科目においても多くの学生がその内容を理解できていると考えられるが、基礎演習Ⅱやデータ・サイエンス概論については、必要な内容・水準は維持したうえで難易度等の調整を検討する。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	<p>授業評価アンケートにおいて、各科目の総合評価として「評価する」「ある程度評価する」と回答した学生の割合は以下の通り。</p> <p>【外国語学部】 基礎演習Ⅰ: 91.8% 基礎演習Ⅱ: 85.9%</p> <p>【GLA学部】 デジタル・シチズンシップ論: 97.0% 数的思考法: 92.9% データ・サイエンス概論: 91.7% 統計学Ⅰ: 97.0% 統計学Ⅱ: 100%</p> <p>いずれの科目も学生からの高い評価を得ているため、本プログラムの履修について他の学生にも推奨されることが期待される。</p>
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>今年度は学生用ポータルサイトと各授業における担当教員からの情報提供に加え、大学ホームページでの情報公開によりプログラムの周知を行った。来年度はこれらに加えて年度初めに実施するガイダンスでも周知を行い、履修者数の拡大を目指す。</p> <p>履修者数の推移は、本プログラムの改善・進化を担う組織である教養・基盤教育運営部会を中心に毎年度確認を行い、より効果的かつ学生にプログラムを履修する重要性が伝わる周知方法・内容について検討を行っていく。</p>

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	<p>本プログラムは今年度より開始されたものであり、修了者の卒業は令和6年度以降に発生する見込みである。本学では全ての卒業生を対象とした「卒業生アンケート」を実施しているため、修了者の進路や活躍状況については、その活用により行う予定である。</p> <p>また、卒業生の就職先を中心とした企業の方を対象とした「企業アンケート」も実施しているため、企業等からの評価はその活用に加えて、必要に応じたインタビューの実施により把握することを予定している。</p>
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	<p>外部の情報・通信系企業の方より以下のご意見をいただいた。 ・数理・データサイエンス・AIと社会の関わりを体系的に学べる内容である。</p> <p>・実際に手を動かす演習により「データを読む、説明する、扱う」ことがなされ、基本的なデータ活用についても理解を深められる工夫がされている。</p> <p>・プログラムの一部に現状学生には馴染みの薄いソフトの利用が含まれ、操作に不安を覚える受講者がいることと、データの可視化・分析には便利な反面、学習後に当該ソフトを活用する機会が少ないことに懸念が残る。</p> <p>・日常的なデータ活用の機会を増やすため、より汎用的なツールで学ぶ、または学んだツールを活用する授業間連携の推進があると良い。</p>
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	<p>「学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度」にも記載の通り、本プログラムを構成する科目は授業評価アンケートにおいていずれも高い評価を得ており、履修した学生は「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を感じていると考えられる。</p> <p>また、プログラム履修生を対象としたアンケートでは約7割の学生がこれらを「感じた」と回答している。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>授業評価アンケートの「教員の説明は分かりやすかったか」という質問に「そう思う」「ややそう思う」と回答した学生の割合は以下の通り。</p> <p>【外国語学部】基礎演習Ⅰ：88.7% 基礎演習Ⅱ：85.0%</p> <p>【GLA学部】デジタル・シチズンシップ論：100% 数的思考法：100% データ・サイエンス概論：80.6% 統計学Ⅰ：89.4% 統計学Ⅱ：100%</p> <p>いずれの科目も概ね分かりやすい説明が行われているが、学生からの質問が多かった点などはその教授方法について随時見直しを行う。またプログラムや科目の内容は、常に社会の変化や技術発展をふまえたものとなるよう点検・見直しを行っていく。</p>

大学等名	神田外語大学	申請レベル	リテラシーレベル
教育プログラム名	KUISデータサイエンス・AI基礎教育プログラム	申請年度	令和6年度

## 取組概要

### 目的

データやAIを基盤とした現代社会を生きていくために、それらに対する関心を高め、適切に理解し活用するための基礎的素養を身につけること。

### 身につけることができる能力

- ・ デジタル情報やAIの特性を説明することができる
- ・ データやAIが社会の中でどのように活用されているかを説明することができる
- ・ 適切なツールを用いて具体的なデータの処理・分析を行うことができる
- ・ 具体的なデータを分析した結果を他者に説明することができる
- ・ データやAIの活用におけるリスクや留意事項を説明することができる

### カリキュラム・修了要件

#### 外国語学部（2023年度以降入学者対象）

修了要件：以下に示す6単位全ての修得

科目名	修了要件	履修年次	単位数
基礎演習Ⅰ	◎	1	2
基礎演習Ⅱ	◎	1	2
情報基礎Ⅰ	◎	1～4	1
情報基礎Ⅱ	◎	1～4	1

◎必修

#### グローバル・リベラルアーツ学部（全学生対象）

修了要件：以下に示す科目から、必修2単位を含む4単位の修得

科目名	修了要件	履修年次	単位数
デジタル・シチズンシップ論	◎	2～4	2
数的思考法	○	2～4	2
データ・サイエンス概論	○	2～4	2
統計学Ⅰ	○	1～4	2
統計学Ⅱ	○	1～4	2

◎必修 ○選択必修

### プログラムを改善・進化させる組織

教養・基盤教育運営部会

### プログラムを点検・評価する組織

質保証・質向上委員会

### 修了証

修了要件を満たした年度の末に発行（オープンバッジ形式）